

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和 8年 3月 6日

公表：令和 8年 3月 28日

事業所名 りんごの樹

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	0	0	0		
	② 職員の配置数は適切であると思いますか。	0	0	0		
	③ 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	0	0	0		
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	0	0	0		
適切な支援の提供	⑤ こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	0	0	0		
	⑥ 事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	0	0	0		
	⑦ こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思いますか。	0	0	0		
	⑧ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	0	0	0		
	⑨ 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	0	0	0		
	⑩ 事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	0	0	0		
	⑪ 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	0	0	0		
	⑫ 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	0	0	0		
	⑬ 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	0	0	0		
	⑭ 事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング（※5）等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	0	0	0		

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和 8年 3月 6日

公表：令和 8年 3月 28日

事業所名 りんごの樹

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明等	⑮ 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状態について共通理解ができていますか。	0	0	0		
	⑯ 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	0	0	0		
	⑰ 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	0	0	0		
	⑱ 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0	0	0		
	⑲ こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	0	0	0		
	⑳ こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	0	0	0		
	㉑ 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	0	0	0		
㉒ 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	0	0	0			
非常時等の対応	㉓ 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	0	0	0		
	㉔ 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	0	0	0		
	㉕ 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	0	0	0		
	㉖ 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状態等について説明がされていると思いますか。	0	0	0		
満足度	㉗ こどもは安心感をもって通所していますか。	0	0	0		
	㉘ こどもは通所を楽しみにしていますか。	0	0	0		
	㉙ 事業所の支援に満足していますか。	0	0	0		

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

討議年月日：令和 8年 3月 6日

公表：令和 8年 3月31日

事業所名 りんごの樹

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	0	デイ内には防音室もあり、部屋が2部屋に区切られているため、適切な人数に分けての活動が出来ている。ご利用される利用者に合わせて柔軟に対応できる環境が整っている訓練、作業等がやりやすいように環境整備をし、スペースも確保している。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置数は適切であるか。	7	0	0	利用者さんの特性に合わせてスタッフの人数を調整したり、職員が休みの時は非常勤スタッフを配置している。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	0	ホワイトボードにその日の流れが見やすく書いてある。活動スペース、休憩スペース、作業スペース等をわかりやすく整えている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	0	毎日掃除項目をホワイトボードに記載し 終わったものと終わってないものをすぐに確認できるようになっている。季節に応じた適切なエアコンの利用や換気を行っている清掃、消毒は毎日行っている。また、アレルギー対応としても活動の度に消毒等を行っている。	職員間での連携は大切なことだが声掛けや意識だけではできないこともあるので視覚的に連携とれるようにしています
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	0	当日の活動の流れと前日の振り返りを毎日行っている。毎日昼食後に前日の振り返りを行う時間を設けている。支援会議や毎日の打ち合わせなどにも職員が参加できるように設定している。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	0	0	評価表のご意見や、懇談などで出して頂いたご意見を職員で共有して改善策などを話し合っている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	0	毎日の打ち合わせ、問題が起きたらその都度、時間を取り話し合いの場を作っている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	2	0	今後、取り入れていきたい。	

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な 支援の 提供	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	0	0	年間で研修の計画をたてている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	0	プログラムの内容も専門スタッフや現場のスタッフなどが話し合い決めている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	0	アセスメントは関わっているスタッフにも確認している。保護者の方やお子様のご意見も必ず確認している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	0	ケース会議が毎月行われている。支援会議には関わりのあるスタッフが参加している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	0	支援方針や目標など共有し、現場で生かしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	0	アセスメントは会社独自のものを使用している。課題が見つければ、それに対して行動観察シートに記入して支援に生かしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	0	ガイドラインに沿って支援内容を設定している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	0	スタッフで検討して内容を工夫している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	1	様々な情報からより良い支援内容、飽きない工夫をしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	0	利用者さんの特性を考慮して内容ややり方を組み合わせている。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	0	毎日、ミーティングを行い、1日の流れ、活動、担当、注意事項など		
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	0	次の日に前日の振り返りを行い、改善すべき点や気づきを共有している。その日のうちに共有する		

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	0	業務日誌、専門職記録、行動記録などに記載して現場に活かせるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	0	半年に1度、また、必要性が生じた時には職員参加のモニタリングを実施している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	0	管理者、児発管、専門職員が参加するようにしている。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	1		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	1		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	2		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	1	5		
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	2	1	4		
	29	地域の他質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	0	1	6		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	4	0	3		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	2	2		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	0	0		

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明等	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5	1	1	送迎時なども利用し、ベストなタイミングでお伝えできるようにしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	0		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	0		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	1		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	0	3	毎年全事業所合同のクリスマス会を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	0	1	クリスマス会などの行事を行い、交流の場を作っている。茶話会や勉強会なども定期的に実施できるようにしたい。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	1	2		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	0	0	クリスマス会には参加はなかったものの、招待をしている。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	0		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	0		

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでも もない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時の 対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	0		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	1	防音室で部屋を区切ることができている。状況に応じて、部屋を移動するなど配慮している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	0		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7	0	0		

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	アシストりんごの樹		
○保護者評価実施期間	R7年 4月 1日		～ R8年 3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業員評価実施期間	R7年 4月 1日		～ R8年 4月 1日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 6日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	強度行動障害に関する高度な専門知識を有するスタッフを配置し、質の高い支援を提供している点。また、定期的な事例検討会や研修を通じて、組織全体の対応能力を継続的に向上させている点。	利用者様一人ひとりの行動特性を多角的に分析し、根拠に基づいた適切な支援計画を策定しています。社内での事例検討会や専門研修を定期開催し、スタッフのスキルアップを図るとともに、ご家庭での様子を踏まえた保護者様との緊密な連携体制を構築しています。	社外の専門的な研修会や学会へ積極的に参加し、最新の知見や支援技術を事業所内に還元することで、さらなる支援の質の向上を目指します。
2	「スープリウムビジョン」を導入し、動体視力や目と手の協調運動(ビジョントレーニング)など、科学的根拠に基づいた能力の底上げを図っている点。ゲーム感覚で楽しく取り組めるため、利用者様の参加率やモチベーションが非常に高い点。	最新の機器(スープリウムビジョン)を活用し、単調になりがちなトレーニングをゲーム形式で提供することで、利用者様が楽しみながら主体的に取り組める環境を作っています。視覚機能の向上を通じて、学習や運動、日常生活動作の基礎能力向上に繋がっています。	トレーニングのスコアや経過をデータとして記録・分析し、個別の発達段階に応じた最適な難易度設定を行うことで、より効果的で個別化されたビジョントレーニングプログラムを確立します。
3	ボードゲームやカードゲーム等の遊びを通じて、ルール理解や順番待ちなどのソーシャルスキルを自然に身につけられる支援を行っている点。集団活動を通して、他者への意識やコミュニケーション能力、協調性を育てている点。	教え込むのではなく、楽しい遊びの中で自然と社会性が身につくよう工夫しています。また、活動や自由時間には積極的に戸外活動(公園遊びや散歩)を取り入れ、身体を動かすことでストレスの発散や情緒の安定を図っています。	利用者様の日々の体調や心理状態を細やかに観察し、決して無理をさせず、それぞれのペースで楽しく参加できるような柔軟な活動提供を継続・発展させます

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	強度行動障害への対応など、高度な専門知識と豊富な経験を要する支援が多いため、それらを担える専門性の高いスタッフの長期的な確保と定着が課題となっている点。	強度行動障害への対応など、高度な専門知識と豊富な経験を要する支援が多いため、それらを担える専門性の高いスタッフの長期的な確保と定着が課題となっている点。	事業所内での体系的な人材育成プログラムを構築し、経験の浅いスタッフでも段階的にスキルアップできる仕組みを作ります。また、外部の専門家を招いた実践的な研修の実施や、資格取得支援制度の充実を図り、スタッフのモチベーション向上と長期定着を目指します。
2	医療機関、相談支援事業所、学校、その他の福祉サービス等、地域の関係機関との多職種連携体制がまだ十分に構築しきれていない点。	強度行動障害を有する利用者様の場合、行動特性上の配慮が必要となるため、地域社会の活動への参加ハードルが高く、外部機関との接点をもちにくい現状があるため。	地域の医療機関や相談支援事業所との定期的な情報共有の場を設け、顔の見える関係性を構築します。また、地域住民や関係機関に対して強度行動障害への理解を促す啓発活動を行いながら、利用者様が安全・安心に参加できる地域交流の機会を少しずつ創出していきます。
3			

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 8年 3月 6日

公表:令和 8年 3月 31日

事業所名 りんごの樹

チェック項目		はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	0	防音室を使用するなどの工夫をしている配置、利用者同士の相性等防音室(個室)があることで環境設定がしやすい。定員が守られている。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	0	体格のいい中高生にも対応できるよう男性スタッフが多い。利用者さんとの相性も考慮している。また、必要数以上の配置をしている。定員に対して適正な職員配置がされている。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	1	廊下やトイレなど、手すりもあり広さも十分である。しかし、車椅子の利用者さんにとっては設備や安全面に関しては改善が必要。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもの活動に合わせた空間となっているか。	7	0	0	オゾン装置で空気を綺麗にしている十分な広さもあり、自然光もたくさん入り明るい。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	0	防音室を使用している防音室で部屋が区切れるようにしている。防音室がある1人になりたい時、落ち着かない時など、個室の準備が整っている。テイルームが仕切られ2部屋利用できるよう状態になっている。また、建物の特性として倉庫があったり、テイルームの押入れが活用されている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7	0	0	毎日打ち合わせをしていて?当日の活動の流れと前日の振り返りを行っている。打ち合わせを必ず行い、配慮事項等の共有を行なっている点毎日の打ち合わせ、定期的な会議など必要に応じて話し合いの場を設定している。	毎日の打ち合わせが職員間で連携を取るうえで大事なことなので意識して今後も続けていきたいと思います
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	1	保護者アンケートにより、改善すべき事項をスタッフで共有し、現場に生かしている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	0	評価制度を入れているケース会議を行い、利用者に対する意見共有等を行なっている毎日の打ち合わせ、定期的な会議、その他にも必要な場面があれば、その都度話し合いをしている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	1	今後、第三者委員会による評価をしていきたい。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	0	月1.2回程度の研修や通所連絡会の研修で学びの機会が設けられている。毎月の研修、法定研修をしっかりと行うことができている。外部からの講師を招いての研修も取り入れたい。指定された研修時間を職員がしっかりとこなしている。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 8年 3月 6日

公表:令和 8年 3月 31日

事業所名 りんごの樹

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	0	自事業所の特徴を生かし、また、利用者さんの特性に合わせてプログラムを考えている。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	0	懇談を行なっている保護者の方との面談などを通して、よりよい支援となるように情報共有しながら作成している。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	0	サポート会議を開いている支援計画についての会議を行い、関わる職員により支援の内容などを検討している。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	0	計画に関わる職員で確認し、日々の支援に繋げている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	0	基本のアセスメントシートは使用しているが、利用者さんの特性、困り感に合わせたシートも使っていきたい。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	0	それぞれの支援分野について目標設定や支援の内容を具体的に設定している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	0	内容も含めて話し合っている職員の得意分野を生かしたり、利用者さんの特性に合わせたプログラムを会議でできている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	0	利用者にリクエストしてもらったり工夫している他の事業所さんの情報を聞いたり、専門書などから取り入れるなど、マンネリにならないように工夫している。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	0	利用者さんの特性に合わせた目標設定をしており、個別、集団ともに活動として取り入れている。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	0	1日の流れや注意点、座席の位置など細かいことも含めミーティングをしている。	
21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	0	反省や振り返りを行なっている気になったこと、危険だったことは即座に話し合っている。それ以外は勤務時間内におさまらなければ翌日に必ず話し合っている。		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 8年 3月 6日

公表:令和 8年 3月 31日

事業所名 りんごの樹

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでも もない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	0	業務日誌の記入を行なっている支援を行ったら即座に記録を取っている。その記録をもとに支援計画に生かしたり、日々の支援に活用している。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	0	モニタリング会議を毎月行っており、計画の見直しや変更をしている。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	6	0	1	地域交流の活動にもう少し力をいれていかないとけない。	
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	0	自立課題をとりいれ、選択の場面を設定したり、日常の関わりのなかでも職員が決めてしまうのではなく、利用者さんにまず選択してもらうようにしている。	
	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	0	管理者、自発管が必ず参加している。児童発達支援管理責任者がいつも先頭に立ちしっかり対応していただいていると思う。	
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	0	問題が起きたら関係各所に報告をしたり、相談している。	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	0	保護者の方を通じて情報共有したり、直接、学校とやりとりをしている。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	0	1	保育園との情報共有は少ない。相談支援専門員さんや、保護者の方に必要な情報を聞いている。	
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	0	1	相談支援を設けている点。事前に担当者会議があれば参加している。	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	0	3	研修は参加しているが、助言をうけるまではできていない。	
32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3	2	戸外活動で触れ合う機会がある。交流できるイベントなどを立ち上げたり、地域の活動情報を積極的に収集していきたい。		
33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	4	0	3	参加回数は少ない。法人から代表して参加はしている。会議に参加している雰囲気を感じる。社内の上の者が中心になって、通所支援連絡会に参画していると思う。		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 8年 3月 6日

公表:令和 8年 3月 31日

事業所名 りんごの樹

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明等	34 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	0	定期的な面談、送迎時、必要性が生じた際には情報共有を行なっている。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	0	4	研修会のチラシなど、情報提供は行なっている。事業所でもペアレントトレーニングの機会を設けていきたい。	
保護者への説明等	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	0	契約時、変更時など、必ず文書にて説明を行なっている。	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	0	定期的な面談やその都度、ご家族やお子様の思いをきいて現場に生かしている。	
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	0	内容を説明した上でサインをいただいている。	
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	0	相談を受けた際には懇談の場を設けたり、電話相談も受けている。	
	40 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	3	1	3	参加人数がすくないが、年に1回程度やっている。今後はもう少し活発的にできるように工夫していきたい。	
	41 こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	0	担当職員が対応しており、法人全体(管理者)でも共有している。	
	42 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	0	ホームページ、SNSを活用して情報共有している。	
43 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	0	施錠できるロッカーを使用しているパソコンは鍵のかかる事務所で管理している。利用者ごとのファイルを作成、特定の場所に保管している個人情報の書かれた物は捨てる前にシュレッダーにかけるなど工夫している。送迎中などの利用者のそばで個人情報が載っている書類を扱う際は、利用者の手が届かない、もしくは触ろうとせずぐわがる場所に置いている。個人情報使用同意書にサインを頂いている。また、職員にも雇用契約時にみだりに漏らさないようにサインをもらっている。重要書類は鍵付きのロッカーに保管されている。		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 8年 3月 6日

公表:令和 8年 3月 31日

事業所名 りんごの樹

	チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	44 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	0	事業所のイベントに招待している。また、事業所の空き部屋を使って、地域のイベントを行なっている。言葉のチョイスや伝える際の雰囲気などを考慮している。	
	45 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	1	3		
非常時等の対応	46 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	0	訓練の内容を工夫したり、ためになる訓練となるように情報を収集している。	
	47 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	0	避難訓練を行ったいろいろなパージョンの訓練ができるように工夫している。	日頃から訓練を行うことでいざというときにできるため今後も緊張感をもって取り組んでいく
	48 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	0	契約時にアセスメントを行なっている発作が起きた場合の対応マニュアルを入社時に確認している。そういった情報を一覧にまとめている。	
	49 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	0	1	契約時にアセスメントを行なっている医師の指示書をいただいたり、保護者からの情報を職員で共有している。	
	50 安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	0	特になし。	
	51 こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	1	特になし。	
	52 ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	7	0	0	定期的に会議の議題としてあげており、改善できるように話し合ったり、共有している。	
	53 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	0	0	法定研修を行い、事例検討なども行なっている。	
54 そのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	0	支援計画書に記載して同意をいただいている。		

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 8年 3月31日

事業所名 りんごの樹

保護者等数(児童数) 25名 回収数 12件 割合 48.0%

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	11	0	0	1	特にはないです。室内のみならず、公園や買い物練習など、外での活動も充実していて良いと思います。	室内だけではなく戸外活動などでリフレッシュしながら過ごしています
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9	1	0	2	どの人数に対してスタッフが必要かわからないですこちらは特に不足があるとは思いませんが、実際の現場がどうであるかはわかりかねます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境（※1）になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	0	0	1	見学させてもらった時 絵カードなどを利用し、子どもにわかりやすいように支援していただいているなど感じました特にはないです何度か施設内に入らせて頂いていますが、手すりがあったり段差をなくしたりされていて、配慮がなされていると思いました。	視覚的な支援を取り入れながら見通しがもてるように支援を行っています
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11	0	0	1	特にはないです？室内はとてもきれいでした。	
適	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11	0	0	1	お忙しいのにも関わらず保護者の不安にも、子どもの特性にもしっかり向き合っていただきとても安心していきます。ありがとうございます。子供のことをいつも気にしてみてもらっている最初の関わりを大切にしてくださいだったので本人にとってもやらなきゃいけないことがわかるようになったと感じています。こちらの希望に沿った対応をして頂いていると思います。	
	6	事業所が公表している支援プログラム（※2）は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8	0	0	4	支援の工夫がされていると思います。事業所が公表している支援プログラムがどういうものかわかっていません、すみません。合っているとおもう合っています。わかりませんがあつてと思うスタッフ皆さんが支援プログラムを意識して取り組んでいただいととても助かっております。合ってます。支援プログラムがよくわかりません生活や運動！認知などのジャンルごとの支援プログラムに沿った活動をされていると思います。ピジョントレーニングなどは特に楽しくできております。はい	

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表: 令和 8年 3月31日

事業所名 りんごの樹

保護者等数(児童数) 25名 回収数 12件 割合 48.0%

	チェック項目	回答				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
切 な 支 援 の 提 供	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）（※3）が作成されていると思えますか。	11	0	0	1	児童の特性を考慮して計画して下さっています。本人と保護者の意思が反映されていると感じます支援計画をみて保護者の気持ちを寄り添ってくれていると感じます家庭の状態、学校での状態をお伝えして作成してもらっています。いつもありがとうございます保護者の意見も聞いてくれて作成してあるのでいいと思う長年利用させていただいて事もありの確に分析されているかと思われまます。バッチリだと思います。特にないです。送迎時や連絡帳などで情報共有し、デイで行った事などをその都度ご報告頂いております。意見をいつも聞いてもらってます。	
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思えますか。	7	1	0	4	わからないため急な出勤時になどに、できる限り対応して頂き、助かっております。	
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思えますか。	11	0	0	1	特にないです	
	10 事業所の活動プログラム（※4）が固定化されないよう工夫されていると思えますか。	8	2	0	2	日々の活動スケジュールがわかりません。こちらの利用日数が少なめなので、利用外の日に行われている	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3	0	1	8	知らないです	
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10	0	0	2	わかりません	
13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12	0	0	0	モニタリングの時にしてもらっています。		
14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4	4	0	4	わかりませんこちらがなかなか機会を設けられないのがあると思います。		
15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますと思えますか。	11	1	0	0	利用頻度も少ないからかあまりスタッフとのコミュニケーションが取れてないと思います送りの際に、デイや帰りの車での様子を教えてください。	毎回連絡帳で事業所での様子をお伝えしていますが、必要に応じてさらに保護者と連携を図れるように努めていきたいと思えます。	

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 8年 3月31日

事業所名 りんごの樹

保護者等数(児童数) 25名 回収数 12件 割合 48.0%

	チェック項目	回答				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない		
保護者への説明等	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10	0	1	1	定期的にモニタリングして頂いている。定期的に支援が行われています。特病のことで寄り添っていただき一緒に考えてくれてありがたいです。1年に一回面談しています。いつもありがとうございますと思う。プロ目線で助言いただき、毎回勉強になっております。毎回申し送りありがとうございます。定期的な面談はアセスメント以外ないため年に一度必ず面談をして頂いています。はい	
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11	0	0	1	そう感じてます	
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	3	1	6	わかりません。なかなか他のお子さんの保護者様とお話する機会がなく、行事等に参加しても子どもを見ているのでいっぱいになります。	
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11	0	0	1	わかりません	
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11	0	0	1	わかりません。送迎時や連絡帳以外でも、気になった事などは必ず電話を下さるので助かります。	
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	9	0	0	3	わかりません	
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11	0	0	1	特にありません。今まで特にトラブルはありません。	
非常時等の対応	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	8	0	0	4	わからないためその都度ご連絡があります。	
	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	10	0	0	2	わからないため年に数回、活動中に避難訓練をしているのを連絡帳で見ます。	
	25 事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9	2	0	1	よくわかりません。	
	26 事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10	1	0	1	けがをしてないので経験していません。	

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 8年 3月31日

事業所名 りんごの樹

保護者等数(児童数) 25名 回収数 12件 割合 48.0%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
満足度	27 ごどもは安心感をもって通所していますか。	11	1	0	0	帰宅後いつもニコニコしているので子どもの表情をみて安心して過ごしていると感じる楽しみにしています。今はたのしく安心して通えてる印象です。急な利用でも行き渋りはないです。	安心感を持ってもらえるように雰囲気作りなどを今後も行っていきます
	28 ごどもは通所を楽しみにしていますか。	11	1	0	0	今日は何をするのか楽しみ～と毎回言っています楽しみにしています。	
	29 事業所の支援に満足していますか。	11	1	0	0	いつも暖かさを感じています土曜日も含めて楽しく通っています。特にありません困ったことがあったりすると、真摯にお話を聞いて下さるので安心できます。	

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	アシスト りんごの樹		
○保護者評価実施期間	R 7年 4月 1日		~ R 8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	R 7年 4月 1日		~ R 8年 4月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R 8年 3月 6日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	強度行動障害に関する高度な専門知識を有するスタッフを配置し、質の高い支援を提供している点。また、定期的な事例検討会や研修を通じて、組織全体の対応能力を継続的に向上させている点。	利用者様一人ひとりの行動特性を多角的に分析し、根拠に基づいた適切な支援計画を策定しています。社内での事例検討会や専門研修を定期開催し、スタッフのスキルアップを図るとともに、ご家庭での様子を踏まえた保護者様との緊密な連携体制を構築しています。	社外の専門的な研修会や学会へ積極的に参加し、最新の知見や支援技術を事業所内に還元することで、さらなる支援の質の向上を目指します。
2	「スープリウムビジョン」を導入し、動体視力や目と手の協調運動(ビジョントレーニング)など、科学的根拠に基づいた能力の底上げを図っている点。ゲーム感覚で楽しく取り組めるため、利用者様の参加率やモチベーションが非常に高い点。	最新の機器(スープリウムビジョン)を活用し、単調になりがちなトレーニングをゲーム形式で提供することで、利用者様が楽しみながら主体的に取り組める環境を作っています。視覚機能の向上を通じて、学習や運動、日常生活動作の基礎能力向上に繋げています。	トレーニングのスコアや経過をデータとして記録・分析し、個別の発達段階に応じた最適な難易度設定を行うことで、より効果的で個別化されたビジョントレーニングプログラムを確立します。
3	ボードゲームやカードゲーム等の遊びを通じて、ルール理解や順番待ちなどのソーシャルスキルを自然に身につけられる支援を行っている点。集団活動を通して、他者への意識やコミュニケーション能力、協調性を育てている点。	教え込むのではなく、楽しい遊びの中で自然と社会性が身につくよう工夫しています。また、活動や自由時間には積極的に戸外活動(公園遊びや散歩)を取り入れ、身体を動かすことでストレスの発散や情緒の安定を図っています。	利用者様の日々の体調や心理状態を細やかに観察し、決して無理をさせず、それぞれのペースで楽しく参加できるように柔軟な活動提供を継続・発展させます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	強度行動障害への対応など、高度な専門知識と豊富な経験を要する支援が多いため、それらを担える専門性の高いスタッフの長期的な確保と定着が課題となっている点。	強度行動障害への対応など、高度な専門知識と豊富な経験を要する支援が多いため、それらを担える専門性の高いスタッフの長期的な確保と定着が課題となっている点。	事業所内での体系的な人材育成プログラムを構築し、経験の浅いスタッフでも段階的にスキルアップできる仕組みを作ります。また、外部の専門家を招いた実践的な研修の実施や、資格取得支援制度の充実を図り、スタッフのモチベーション向上と長期定着を目指します。
2	医療機関、相談支援事業所、学校、その他の福祉サービス等、地域の関係機関との多職種連携体制がまだ十分に構築しきれていない点。	強度行動障害を有する利用者様の場合、行動特性上の配慮が必要となるため、地域社会の活動への参加ハードルが高く、外部機関との接点を持ちにくい現状があるため。	地域の医療機関や相談支援事業所との定期的な情報共有の場を設け、顔の見える関係性を構築します。また、地域住民や関係機関に対して強度行動障害への理解を促す啓発活動を行いながら、利用者様が安全・安心に参加できる地域交流の機会を少しずつ創出していきます。
3			